

湯川博士、ギリ
シア講演旅行へ
湯川 物理学者W・ハイゼンベルグら世
界の一流学者六人とともに、ロイ
ヤル・ナショナル財団（ユースタ
ンチン）の世話で、六月中旬に帰
国する。
湯川は十六日京都を出発、ギリ
シアへ講演旅行に行く。ドイツの
シヤヘ講演旅行に行く。ドイツの

は二十人の団休で期間二
日間一人当り五六萬円

上野 一九六四、五、二二

スタンドを贈る

世界連邦京都婦人の会

昨年八月、京都府会館で世界連邦世
界大会が開かれたとき日本側の款
項多めに感謝したアトリー英元首
相夫人ら約三十人の外人出席者は
「おれに」と万六千円を贈り
た。
あらかじめ相談を受けていた京
都府会館側も会議用スタンドがな
かっただけにこの奇贈に喜んで

いる。総会には湯川秀樹博士も
姿を見せ「婦人の強いことは大

くわかつているが、大いに誇り
を持って世界連邦運動を続けて

ほしい」とエッセイたつものに
あいなつ、同総会も「家族、こ
どもを連れ仲よく運動を盛り上
げよう」と決議した。

毎日

1964. 5. 22

c073-001-005

京都府会館へ書

見台二つ贈る

世界連邦京都婦人会
下京の京都府会館ホールで
二十一日、開かれた世界連邦京都
婦人会総会の席で、京都府会館へ

と、湯川と世界連邦京都婦人会
議長に託した。湯川さんらは
「広く役に立つものを二つて記
念に残そう」と話し合い、この贈り
物となった。

c073-001-004

c073-001-007

毎日新聞 1964. 5. 22

新しきよき京都を

(19)



湯川 秀樹氏

京大教授

は何かの意味で同様の調和でありそれにはし
かりした誇りの自覚をもたせたい。京都府会館
力の道が開けようというものだ。京都府会館
であの生きている。よりよいものを生み出す場
として欲しい。私にとって小さいときから京都で育ったことは
本心によかったと思う。こういうよい環境の中で生活し物理
という非常に新しい分野の仕事をしてきたのは何か新しいも
のを生み出すとする気持ちがそうさせたからである。
住むものの心がけ次第で伝統的な美しさを保持しながら新
しい時代にも適応した、そして日本はもうすぐ世界中の人
人から真に愛される都市になると思う。

三方を山に囲まれたこの京都全体を多く見ると極めて神祕
の組かいた芸術家によって注意深く形づくられ、みがきあげら
れた一個の芸術品にも似ている。微妙な山の形、適度の水深
気によるうららかな空気を含んだふんわりとした何代にもわたって人々
がその中ではぐくまれ同化されながら、自然と調和を保ちつ
つ文化を築き上げていったわけだが、私は世界中でこんなに
ユニークで美しい町はないと思う。京都の人は誇りを自覚す
ることが第一だ。

よこそとなく新しいものは古をこそと
とられるが、私は新しいものがいい加減なも
のではない限りそんなことはないと思う。美しさ

c073-001-006